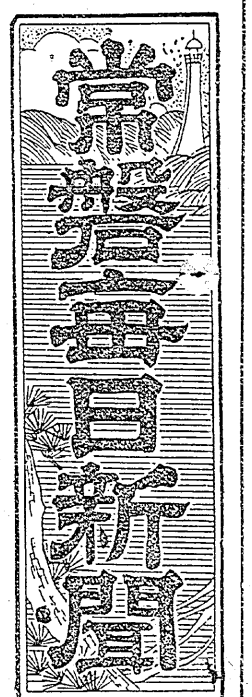


刊夕日五十月一十



定価 一月五拾五圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓
 日曜日の翌日休刊
 発行所 東京市神田区西本町三丁目三番地
 電話 六三〇〇
 印刷所 東京市神田区西本町三丁目三番地
 電話 六三〇〇

兩親の新舊 (3)

讀者諸兄姉貴方がその何れの型に属するかを反省して下さい。

上村 哲彌

不健全な環境

子供の教育といふことは、自分が斯く育つ可きであつたと希ふやうに、我が子を導くことであると私はいつた。だがそれは親が自分で出来なかつたものを子供によつて償ふといふことであつてはならない。實例によつて解り易く説明するならば、親が少年時代から熱望したにも拘らず、何らかの事由によつて自分では醫者になることが出来なかつたが故に、その補償として我が子の希望や天分や傾向等におかまひなくいやおうなしに醫者にならうと強制するといふやうなことをしてはならぬといふのである。それは取りも直さず我が子を「不健全な環境」に置くことだからである。それは亦次のやうなことであつてもいけない。即ち親が自分の幼少の時代の不幸は、自分の両親から毎日に自由を束縛されたことであり、幼き自分の唯一つの願求が自由であつたところからして自分の子供に對しては一切自

由放任で仕度い放題をさせるといふやうなことも世間には尠くないが、それは十分に慎まねばならぬ。これも亦「不健全な環境」に我が子を置くことに外ならぬからである。

願望は正しく

斯くの如く反省して見ると、親が「自ら斯く育つ可きであつた」と希ふといつても、その希ひが健全で正常な希ひでない限り子供は決して健全正常に育つ上げられないといふことが肯かされる。自然の法則にも人間社會の約束にも、専恣と氣紛れを慎むことは如何なる場合に於ても人間の眞に幸福ならしめる唯一の條件である。我が子を育て導く場合に於ても、親と子の幸福を完ふせんとするならば氣紛れな親の希望を子供の上に強制的に加へるといふやうなことは許されない。親が我が子の生命の前に額づいて敬虔に、謙遜に此の尊い生命が、正しく、高く、強く、豊かに伸びゆく爲めに何を爲す可きかを再考三思し、純一無雜に、我が子の成長に奉仕するといふ態度が何よりも必要である。斯くの如き親の我が子の上にかける希望は最早や淺薄な病的な利己的な願ひではない。

親の權威といふものは、親本位から子供中心への思想の護換は、決して親の

親本位から子供中心への思想の護換は、決して親の

- 朝紅茶 トースト ジャム バイナツブル
- 晝 煎茶 切りいか
- 晩 粕漬鰯 牛鍋 牛肉 白たき ねぎ 生卵

軟化を意味するものでもなければ權威の失墜を意味するものでもない。我が子に對して絶対の法則たり、無條件の尺度たることを確信する舊式の親連は子供中心といふことは直ちに親の權

文藝募集

威の失墜であるやうに考へ勝ちであるけれども反省せよ、子供の外見上の服従にも拘らず彼らは決して自ら己惚れてゐるほど權威を享有してゐるものではない。之れに反して新しい子供中心の親連は舊い自己中心の親連の無想だもしないやうな權威を享有してゐる。

店主が店員	を連れて行	かれる	正シイ食堂	正シイ喫茶	正シイ酒場	平。田町	レストサロン	電三五二番
-------	-------	-----	-------	-------	-------	------	--------	-------

福祿ストロブ福引

景品總額五萬圓

期間昭和十一年九月廿五日ヨリ十二月十二日マデ
 福引券 景品總額五萬圓
 景品總額五萬圓
 景品總額五萬圓

- 一號 大衆(中型)寶(大小)各一本ニ付一枚
- 二號 大衆(大型) 各一本ニ付二枚
- 三號 各一本ニ付三枚
- 四號 各一本ニ付四枚

抽籤發表 昭和十一年二月十一日東京朝日新聞
 發表致シマス。
 景品引換 昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日迄
 福引券引換ニ最寄ノ代理店ニテ景品ト引換致シマス
 福引券一千枚ヲ以テ一組トシ當選ノ方ハ左ノ景品ヲ差上ゲ

- 一等 百圓
- 二等 拾圓
- 三等 五圓
- 四等 外特製福祿便箋
- 景品 空籤ナシ

福祿ストロブ販賣代理店
 平町五丁目
 久 釜屋商店
 阿部石炭商店

干ヤナギ 賣り始めました
 いか切込
 鯉節 鯉鹽辛
 平土橋

丸仙鮮魚店
 電六六一番

吉原有樂町に於ける
 レストラン
 平曾館
 電624

冬の御用意は

- 冬服オーパ・トンビ類を當店獨得のスタイルにて各種豊富に取揃へました。是非御一覽下さい
- 黒小倉小學服 0.90ヨリ
 - 黒小倉中學服 2.90ヨリ
 - サージ立衿上下 7.00ヨリ
 - 背廣三ツ揃 10.00ヨリ
 - オーパ 6.00ヨリ
 - モデリ 2.60ヨリ
 - 婦人コート 3.00ヨリ
 - 婦人オーパ 8.50ヨリ
 - 小學水兵服 1.60ヨリ
 - ベビー服 2.80ヨリ
 - 男兒幼年服 1.70ヨリ
 - 文化コート 0.80ヨリ
 - 男女子供オーパ 2.20ヨリ
 - スカート 各種
 - デヤンバー

外に各種作業服ズボン類
 平町三丁目 電話六一三
 信用堂洋服店

列車遭難現場附近

鐵道電話の怪

怨靈のなす業かと

鐵道員ゾツとする

實は散る紅葉の悪戯

去月十七日突發した磐越東線川前、小川郷間の列車顛覆事件の慘狀は世人の記憶に生々しく想起されるが、あれ以來遭難個所附近の鐵道電話に怪しい人のさ、やきが混つて來ると云ふのでたゞさへ寢覺めの悪い『不可抗力』だと片付けた鐵道關係の人達はつゞき怨靈のなす業だらうと内心背筋に

冷水の氣持でひそかに調査を進めてゐたが、この不氣味な怪物の正体は風ある毎に鐵道電話の電線にはら〜と飛ぶ、紅葉を過ぎたわくら葉のいたづらと解つたが、木の葉が鐵道電線とすぐそばの保線用電線との混線仲立ちをしたもので一時は大變な話題を提供した飛んだナンセンス

遞信診療所が

借家難に陥る

結局來春迄延期

本郡下の郵便局従業員並に家族千餘名の健康増進を計る爲め既記の如く仙臺遞信局の手によつて平町に遞信診療所を開設する事となつたので平局は市内數名の家主に交渉した處いづれも家賃が高くて折合ひが付かず行惱みの状態に陥つたので十二月一日迄の開設は困難となり結局來年一月下旬頃迄延びる模様である

各驛表彰

夫々舉式

昨報事務成績優良で表彰された平驛の表彰狀授與式は十七日午前九時の豫定であつたが都合で明十六日午前八時に變更された、尙同様表彰された勿來、泉兩驛は本十五日小川郷驛は明十六日夫々中澤水戸運輸所長臨

戶籍會開催

既報石城双葉二郡五十三ヶ町村戶籍會は十三、四兩日に亘つて内郷村淺野會館で催され各町村戶籍關係者九十名會堂した

第四校の敷地買収

經過を取纏む

既報第四小學校敷地買収に關しては敷地買収委員が目下夫々交渉中であるが来る十八日迄に各委員の交渉經過を取纏め第二段の活動に入ることになつた

縣下學童書道展に

平町の各校「學校賞」を受く

成績拔群の譽れ

福島女子師範學校主催の縣下小學校兒童書道展覽會は今十五日より三日間同校講堂に開催、出品點數四千八百餘あり高井教育課長外三氏審査の結果兒童の成績拔群で優秀學校賞を受けたのは縣下に十八校あり本郡内では左の六校が入賞書道馨城のため萬丈の氣を吐いた

平第一校 同第二校 同第三校 小名濱校 草野校 内郷尋高校

産業組合指導 石城産業組合管内の郡下三十四ヶ町村には組合數が現在三十あり残る四ヶ村に對し徹底的に設立の指導を行ふと

販賣利用組合が

十周年の祝賀會

石城販賣利用組合は本十五日午後一時から組合樓上に理事會を開き組合創立十週年記念祝賀會を開催及び各種製油所開所披露等についての打合せをする

上遠野局改築 上遠野村郵便取扱所は今回三等局に昇格したので近く工費二千圓を以つて局舎を改築すると

教員庭球

出場チーム

體協石城支部主催郡下小學校教員庭球大會はいよいよ明十六日午後一時より平商平第一南コートで舉行、篠山會長の挨拶に次ぎ昨年度優勝好問尋高校の優勝杯返還後直ちに試合開始されるが出場チームは左の十九組で熱戦を豫想される

(警崎第二) 竹原松崎 (好問尋高) 渡邊増井 長谷川濱田 金子中山 吉川新田 伊藤川島 (赤井第二) 班目室井 (泉尋高) 鈴木上遠野 野原山田 (湯本尋高) 岡部岡部 瀧小林 (小名濱校) 鈴木武菊 木田荒川 (平第二) 井上伸村 水竹松本 (平第二) 熊谷米本 渡邊橋本 (平第三) 西牧三本杉 菱沼風間

湯本消防表彰

湯本消防組は曩に鐵骨火の見貯水池、警察電話架設等に盡力功勞あつたので十四日本縣警察部長より表彰された

平町人事

回出生
△八幡小路八一當時内郷村 大字宮字宮澤二田村榮氏 三男恒吾さん

回死
△南町二八當時双葉郡富岡町大字小濱字驛二九吉田 八男さん(一ツ)

平職業紹介所報告

回人を求める

△女中 廿才迄 尋卒 給料五圓
△農夫 六十才迄 日給四五十錢
△漁業雜役 卅才迄 月給十圓
△料理見習 廿三才迄 月給八圓
△家具雜役 廿才迄 日給五十錢

回職を求むる方
△配達人 卅才迄 尋二修
△女中 卅五才 高卒
△自動車助手 廿一才 尋卒
△料理人 四十四才 高卒
△旅館番頭 卅四才 高卒
△鐵筋職工 卅一才 高卒
△鐵工 廿一才 高卒

外科 專門
花柳病科
木村外科醫院
自炊入院の便あり
電話三〇九番
平町六丁目橋

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
平町田町 電話五一三番

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

謎の獵奇事件も 數日中に解決か

三坂區長殺しが新展開 相次いで容疑者を召喚

事件發生以來四十餘日巷間迷宮入りを傳へられる三坂村大字下三坂の區長殺しは既記の如くその昔天命年間饑饉の際の新移民と土着住民との

反目に端を發し集團的部落抗争が同事件發生の間接の禍根と目されるため平署は引續留置中の阿部清(四)阿部長門(三)白石鶴治(三)等三名の容疑者に對して慎重に取調べを續行中の處十三日夜に至つて果然三名中から有力な自

正直農夫が 稻刈りの歸途

四百廿圓拾得

湯本町大字水野谷字鹽ヶ崎農小水野庄吉(三)君は昨十四日夕刻四時頃終日の稻刈に疲れ切つて自宅に歸る途中湯本より小名濱に至る縣道水野谷地内で背に荷つた稲束の重さにひよいと下を見たらトタン、ふくれ上つた財布の落ちてゐるのを拾ひ上げて見るとなんと大枚四百二十圓がざく／＼とはいつてゐるのにびつくり早速

湯本才判見學 湯本尋高校高等科兒童二百五十

二名は岡部訓導引率の下に出平今十五日午前十時より平區裁判所公判廷で監督判事高十藏氏の裁判に關する話を聴講した

平第三小學 校は來る廿三日の新嘗祭當日全校生徒の書畫展覽會を校内に開き作

國防映畫 豐間郷軍で豊間村は郷軍福島支部主催の國防思想普及映畫會を廿一日開催するが當日のプログラの通り

家宗から 入山謠曲會 入山炭礦謠曲部主催で明十六日午前十時から自治會館に謠曲三派聯合演奏會を催し東京喜多流本家より伊藤千六、寶生本家からは前田八十治の兩師範が出席する

明日の天気 今夜も明日も前東の風天氣次第に悪くなる

今晚の部
後六、〇〇 子供の時間
「霜と霜柱」岡部長門
後六、二五 基礎英語講座
岡倉由三郎
後七、三〇 講演「國民の歌」下村宏
後八、〇〇 長唄「新浦島杵屋勘次他

海軍の砲身で 招魂碑を建立

既報小名濱在郷軍人分會の招魂碑建立に就いては十一日役場に幹部會を開いて協議したが結果海軍の砲身を拂下げて招魂碑を建てることになり十八日町長小野晋平氏は横須賀鎮守府に出張交渉すると

妻文句の 無一文男

磐城炭礦平發電所土木請負業菱川壽三郎方石黒庄太郎(三)は本十五日午前三時卅分頃平町南町浪花亭方に登樓同家酌婦澤野キクノ(九)を相手にしてさん／＼大盡遊びをした揚句「俺は無一文だ、勝手にしろ」と妻文句で平署へ

小鳥の危機

湯本町字上町居任川越長兵衛

前七、〇一 基礎語講座 (二八)武内大造
前七、三〇 朝の修養「直毘靈」二文學博士山本信哉
前九、〇〇 衛生メモ
前九、一〇 料理献立「鯉の節焚き」小林忠雄
前一〇、三〇 家庭講座「愛兒教養の實際」高橋能樹
後〇、〇五 管絃樂 新交響樂團
後二、〇〇 母の時間「東京これからの幼稚」園倉橋惣三大阪昔の幼稚園に就て望月くに
後三、二〇 籠球實況早稲田對立教神宮相撲場より中繼
後五、〇〇 職業紹介事項
後六、〇〇 子供の時間 お話と唱歌お話橋本よしち唱歌仙臺市内幼稚園児の節焚き」小林忠雄
後七、三〇 舞臺劇「職業の選擇に就て」矢野恒太
劇場より中繼佐々木高綱市川左團次一座
後八、二〇 小唄 初時雨
後八、三〇 小唄 初時雨
後八、三〇 お笑ひ課題「動物に訊く」大辻司郎
後九、〇〇 時事解説
發見、家人に引渡したが死因は持病のテンカンである

漁業雜誌發行

濱町漁業界の一展望として機關雜誌「金波銀波」は水産工業會社支配人福尾伊太郎氏が編輯中であつたが近く發行される筈、この内容は同港水揚の状況その他漁況一般に亘る細密な統計を現した漁業者必須のものであると

電話加入名簿

仙臺遞信局管内本年八月一日現在の福島縣下の電話加入者名簿が本十五日平郵便局に配布されたので近く市内電

入山慰安相撲

湯本町入山炭礦は十七日午前九時より同礦グラウンドで従業員慰安の素人相撲大會を開催する

山内醫院 平町。田町 電話六一九番

